

令和 8 年 第 1 回 定 例 会  
委 員 長 報 告

令和 8 年 3 月 2 3 日

総務経済常任委員会

## 所管事務調査「第三セクターの運営についての調査」報告

本委員会では、「第三セクターの運営についての調査」として、町内3社（奄美アイランドドローン株式会社、株式会社せとうちフェリー、奄美せとうち地域公社）の聞き取り調査・現地調査を行うとともに、先進地への視察研修を実施いたしました。以下に、調査の経緯および視察等で得られた知見を報告いたします。

- 令和7年5月12日：長島町（天長フェリー）視察研修を行いました。情報公開の徹底や国庫補助航路としての運営方針を学ぶとともに、利用者や島民の生活スタイルに寄り添う「徹底した地元愛」が子供たちの憧れとなり、「次世代へつなぐ人材循環」を生み出している知恵を学びました。
- 令和7年8月6日：曾於市（農業公社）視察研修を行いました。深刻な人手不足の中、自治体が主導して高齢農家に代わりトラクター耕起などを行う現場支援型の取り組みを調査し、農家と共に農業基盤を守る強い覚悟や、農業の指導体制支援の重要性を確認しました。
- 令和7年10月20日：三島村（みしま焼酎 無垢の蔵）視察研修を行いました。公設公営による雇用創出や農業振興といった住民福祉を重視した経営、ならびに国・県の補助金や地域おこし協力隊を活用したブランド構築について調査しました。小さな組織でも世界に通用する商品を作り上げる意志や、適材適所のリーダー育成の重要性を学びました。
- 令和8年1月8日：株式会社せとうちフェリー 聞き取り調査を行いました。新造船「天長丸」の建造遅れ、機関出力増加に伴う機関士増員などの人手不足問題、約7億円の建造費等による赤字見込みと運賃改定の検討など、厳しい財政状況について確認を行いました。
- 令和8年1月23日：沖縄県竹富町（町有貨物船「つむぎ」）視察研修を行いました。ふるさと納税や補助金を活用して建造費の財政負担を抑えつつ、指定管理者制度を導入して毎月黒字を維持している安定経営の実態を調査しました。「離島振興の本質は移動の自由の保障にある」という認識のもと、島民の声に寄り添い公的に支える責任を再認識しました。
- 令和8年2月20日：奄美せとうち地域公社 現地聞き取り調査を行いました。瀬相きび酢工場にて、冬場の売上不振等による赤字見込み、売上目標（5000万円での黒字化）、HACCP（ハサップ）に沿った老朽化施設の改修計画（約5800万円規模）等について詳細な聞き取りを行いました。

各第三セクターは、加計呂麻島・請島・与路島はじめ瀬戸内町の活性化・振興や町民生活の未来に欠かせない重要な組織です。先進地視察を通じて、持続可能な運営には「徹底した地元愛」と現場感覚を持った官民連携が重要であり、瀬戸内町ならではの真の地方創生に繋がると確信いたしました。また、実質的に公金が投入されている現状を鑑み、より一層の情報公開に努め、第三セクター・町当局・議会が密に連携して経営健全化に取り組むことが求められます。

以上の調査を踏まえ、令和8年3月16日に当委員会を開催し、調査結果の取りまとめを行い、別紙のとおり意見を集約いたしました。

## 意 見

1. 奄美アイランドドローン株式会社 (AID) については、これまでに多額の公的資金が投入されている事実を重く受け止める必要があり、議会への十分な情報開示や町民への説明責任、ならびに解散の整理業務を確実に実行されたい。
2. 株式会社せとうちフェリーについては、本町の離島生活とや地域経済を支える基幹的インフラとしての重要性を踏まえ、公的資金の投入はやむを得ないものとするが、将来的な自立経営を目指し、経費削減策の徹底、輸送対象の拡大、船員の人材育成・確保など、抜本的な改善に鋭意努められたい。
3. 奄美せとうち地域公社については、「きび酢村構想」に向けた施設の整備および安定的運営の実現が求められます。持続可能な事業展開に向けて、HACCP (ハサップ) に沿った老朽化施設の改修等を進めるとともに、きび酢事業の明確な事業計画書を策定し、確実な推進を図られたい。また、同公社が独立採算に向けた経営姿勢を明確に示している点は評価でき、早期の黒字化に向けて町としても一体となって支援していくべきです。深刻な人口減少や人材不足の課題に対しては、先進事例を参考に、農業の指導体制支援や特産品製造支援をさらに研究し、現場支援型の取り組みを通じて地域の産業醸成や雇用創出に繋がられるよう努力されたい。

以上の意見を町当局に申し入れることが適当であると決定しましたので、議長がそのように取り計って下さるようお願い申し上げます。

以上で「第三セクターの運営についての調査」の報告を終わります。